昭和医科大学歯科病院だより　2025.12月号

通算247号
2025.12.15 発行

昭和医科大学
SHOWA Medical University

―昭和医科大学歯科病院の理念―

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者　病 院 長　槇 宏太郎
編集責任者　広報委員長　長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2－1－1
TEL 03-3787-1151（代表）
ホームページ：https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html

社会の変化に応える“更新力”

口腔腫瘍外科　診療科長・教授　嶋根 俊和

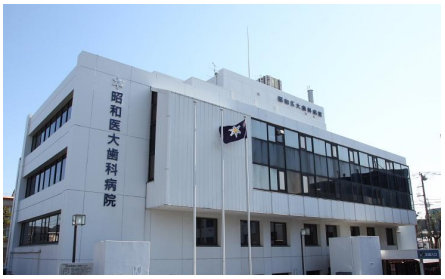
近年、社会の変化は目覚ましく、働き方改革やダイバーシティ、AI、遠隔診療、医療DXなどの言葉が日常的に聞かれるようになりました。私が働き始めた30年前とは全く異なる価値観が浸透し、私たちは日々情報を更新しながら、柔軟に順応していく姿勢が求められています。

医療の現場も例外ではなく、特に口腔がん診療においては、インターネットの普及により、患者さん自身が新たな治療法や薬剤、各病院の手術件数、関連論文、さらには口コミまで、幅広く情報を取得できる時代となりました。これにより、患者さんは病気に対する理解を深め、自らの治療選択に積極的に関与できるようになり、医療者との関係性も変化しつつあります。

こうした情報環境の変化は、患者さんの選択肢を広げる一方で、医療者側にも高い説明責任と情報更新能力が求められます。私たち口腔腫瘍外科では、日々進歩する医療知識と技術に目を向け、患者さんにとって最適な治療を提供するため、常に最新の情報に触れ積極的に吸収しながら診療にあたっています。口腔がんの治療においても以前は手術、放射線、化学療法でしたが、現在では分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬に加え、がんゲノム医療や光免疫療法など、革新的な治療法が導入されています。しかし、診療の質は、単に技術や知識だけでなく、患者さんとの信頼関係、そして社会の変化に対する感度によっても大きく左右されると感じています。

昭和医科大学歯科病院口腔腫瘍外科としても、時代の流れに即した医療の在り方を模索し続け、患者さん一人ひとりに寄り添った診療を心がけてまいります。

今後とも皆様のご理解とご協力を賜りながら、より良い医療の提供に努めてまいります。



P1　社会の変化に応える“更新力”
P2　診療科紹介：口腔腫瘍外科
P3　歯科診療トピック：補綴歯科
P4　公開講座開催報告、新任のご挨拶、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。
患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：口腔腫瘍外科

口腔腫瘍外科　診療科長補佐・講師　齊藤 芳郎

私たち口腔腫瘍外科は、口腔内に発生する腫瘍の診断と治療を専門とする診療科です。腫瘍には大きく「良性」と「悪性（がん）」がありますが、当科では特に口腔がんの治療に力を入れています。

口腔がんの治療の中心は手術です。しかし、手術後に再発のリスクを下げるための追加治療が必要となる場合や、手術が難しい・遠隔転移を伴う進行例では、化学療法を行うことがあります。今回は、当科で実施している化学療法についてご紹介します。

口腔がんに対する化学療法は、この30～40年で大きく進歩してきました。1980年代後半には、シスプラチンという抗がん剤が標準的に使用されるようになりました。シスプラチンは、がん細胞の遺伝子に傷をつけて増殖を抑える薬で、放射線治療と併用することで、より高い治療効果が得られることが明らかになっています。現在も、手術後の再発予防を目的とした補助療法として広く用いられています。

さらに2017年以降、免疫チェックポイント阻害薬の登場により、口腔がん治療は大きく前進しました。代表的な薬剤であるニボルマブやペムブロリズマブは、患者さん自身の免疫が、がんを攻撃する力を高める治療法です。従来の抗がん剤が効きにくくなった再発・転移例でも有効性が示され、生存期間の延長が明らかとなったため、現在では世界的な標準治療として位置づけられています。

このように、口腔がんの化学療法は「がん細胞を直接壊す治療」から「免疫の力を活かす治療」へと進化してきました。治療選択肢が増えたことで、より患者さんに合わせた治療が可能になり、進行例を含めた生存率の向上につながっています。当科でも多職種カンファレンスを重ね、これらの最新治療を積極的に取り入れています。

お口は「食べる」「話す」など生活に欠かせない大切な器官です。口腔がんはこれらの機能に影響を及ぼす可能性があるため、早期発見・早期治療が非常に重要です。化学療法の進歩により、進行した口腔がんでも治療の可能性が広がっています。お口の中のできものや違和感でお困りの際は、どうぞお気軽に当科へご相談ください。

多職種カンファレンスの風景

昭和医科大学頭頸部腫瘍センター（口腔腫瘍外科）

歯科診療トピック：歯科補綴

補綴歯科　診療科長・教授　馬場 一美

補綴歯科外来では、最先端のデジタル技術を活用し、精度の高い革新的な補綴治療を患者さんに提供しています。デジタル技術を取り入れることで、従来の治療法に比べてより安全かつ簡便な処置が可能となり、患者さんの負担軽減につながります。

この方法で製作される補綴装置は耐久性や審美性に優れており、新たな時代の治療法として注目されています。

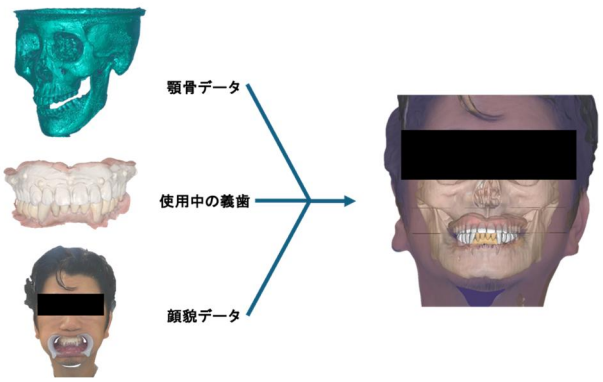
1. 口腔内スキャナーと3Dプリンターを用いた精密義歯の製作

口腔内スキャナー（光学印象）を用いることで、従来の印象材による型取りよりも迅速で快適な採得が可能となり、患者さんの負担や待ち時間を大幅に軽減できます。取得したデジタルデータはモニター上でその場で視覚的に確認できるため、口腔内の状態を患者さんと共有しながら、治療内容を分かりやすく説明することができます。

得られたデジタル情報をもとに、3Dプリンターを用いて精密な義歯を製作することができます。デジタル技術による高い再現性と加工精度により、適合性・快適性に優れた義歯を提供することが可能です。

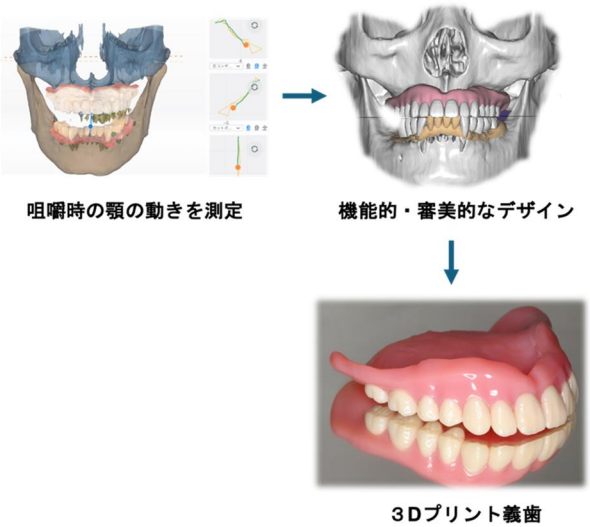
2. デジタルデータ統合を活用した審美・機能性の高い義歯製作

デジタル技術を活用することで、より高度で精密な補綴治療が可能となります。顔貌の3Dデータ、現在使用している義歯のデジタルデータ、そしてCTから取得した顎骨データを統合してマッチングすることで、患者さんの顔貌や顎骨形態と調和した補綴装置を設計できます。これにより、機能的な適合性だけでなく、より自然で美しく、患者さんの表情に調和した義歯の製作が実現します。



3. 顎の動きも考慮した先進治療

食事をする時など、患者さんの顎の動きは複雑で個人差があるため、各々で顎の動きも考慮する必要があります。顔貌・歯列・骨のデータに加えて、顎の動きのデータを採得することで、より機能的で調整量の少ない義歯の製作が可能となります。



補綴歯科外来では、最新のテクノロジーと経験豊富な専門医が所属し、患者さんに質の高い歯科治療を提供しています。

お口の健康とその美しさにおいて、私たちにご相談いただければ幸いです。

昭和医科大学歯科病院公開講座を開催しました

病院広報委員会

2025年10月11日（土）に当院6階の臨床講堂で、第28回昭和医科大学歯科病院公開講座を開催いたしました。講演内容は、大場誠悟教授（顎顔面口腔外科）による「さまざまな口腔粘膜疾患」、中納治久教授（矯正歯科）による「矯正歯科と健康寿命～いま、なぜ歯並びが大切なのか～」、渡邉友梨技術主査（歯科衛生室）による「今からできる！お口と身体の健康習慣」の3講演です。

質疑応答や講演後の相談コーナーでは、受講者の皆様から多数の質問があり、充実した時間になりました。また、受講者の方からは「歯ブラシの選び方と使い方が参考になった」「ためになりまた次回も聞いてみたい」というご感想もいただきました。

新任のご挨拶

事務課　事務長　秋山 好司

12月1日より昭和医科大学歯科病院の事務長を拝命いたしました、秋山好司と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

この度本職を拝命し、その責任の重責を痛感しております。微力ながら歯科病院の発展のために精進していく所存でございます。皆様方のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院の健全な運営や経営を行うことが当然ながら重要ではありますが、そこには患者さんが気軽に安心して受診できる病院環境の整備や、病院の施設や設備をしっかり管理することもとても重要なことであります。

患者さんに気持ちよく病院をご利用していただくためにも、外見だけでなく病院で働く職員（医師、看護師、その他の病院職員）がチーム医療を実践して、地域の皆さんや当院にご受診されている患者さんにとって、より良い病院となれるよう鋭意努力してまいりますので、今後とも宜しくお願いいたします。

編　集　後　記

寒さも一段と厳しさを増してまいりました。気がつけば年の瀬も迫り何かとご多用のことと存じます。皆様方にとって今年はどんな年でしたでしょうか。

インフルエンザが流行していますので、こまめな手指消毒など最低限の感染対策を継続して体調を崩されませんようご自愛ください。　(M.T)